

一般質問

高齢者などの孤立防止

市の取組は？

(自民クラブ)

問

無縁社会とまで言われるように、最近は孤立死など痛ましい事例が報道されているが、孤立するリスクが高い高齢者世帯、独り暮らし高齢者、父子・母子世帯の状況を問う。

また、孤立を防ぐため市はどのような取組を行っているのか。

答

平成23年4月1日現在、市内の高齢者世帯は、2万1千445世帯、全世帯の約44パーセントであり、そのうち、独り暮らしの高齢者は、4千192人で全世帯の約8パーセントである。また、母子世帯は1千595世帯、全世帯の約3パーセント、父子世帯は370世帯で全世帯の約0・7パーセントとなっている。

また、孤立を防ぐ取組については、民生児童委員及び見守り推進員が独居高齢者の定期的な訪問や安否確認など、地域の中で深く関わった活動を行うとともに、地域住民グループ支援事

業の実施や老人クラブによる訪問・激励活動などへ支援している。母子・父子世帯に対しても、民生児童委員による支援と併せ、婦人相談員による相談事業の強化や仲間づくりのために母子寡婦連合会への加入を進めるなど、孤立の防止に努めている。

今後とも、各種事業の充実・強化を図るとともに、民生児童委員、見守り推進員、自治会、老人クラブ、母子寡婦連合会などと連携を深め、高齢者や母子・父子世帯を支える地域社会づくりに努めていきたい。

早急な対策を！

中山川河川改修

(自民クラブ)

問

中山川の河川改修については、昭和30年度に着手して以来、長い年月と莫大な費用を要するために、改修は容易に進まない状況にあると言われている。その中で丹原町石経地区の約1千300メートルの区間は、平成10年以降、計3回の洪水被害を受け、河床堆積土砂の撤去や護岸の整備などの対策が求められているが、改修計画はどうなっているのか。

また、今後の河川改修に当たって、市はどのような姿勢で関わっていくつもりなのか。

答

河川管理者の愛媛県によると、丹原町石経地区については、平成20年度から平成23年度の間に1万1千800立方メートルの河川掘削、河川内の立木などの除去を行うなど通水断面の確保に努めているが、護岸整備については、現在のところ、見通しが立たず苦慮しているとのことである。

今後の河川改修についてであるが、災害に強いまちづくりのためには中山川の改修が必要不可欠と考えており、一日も早く改修ができるよう、愛媛県に対して要望していきたい。

今後の在り方は？

石鎚山ハイウェイオアシス

(自民クラブ)

問

石鎚山ハイウェイオアシス館の入館者数及び椿交流館内の椿温泉「こまつ」の利用者数は、毎年、どのように推移しているのか。

また、オアシス館内の展示施設については、経年劣化が見ら

れるが、今後、どのように整備していくのか。

答

過去5年間に於けるオアシス館の入館者数は、平成19年度33万400人に対して平成24年2月末現在では27万100人と減少傾向にある。椿温泉「こまつ」の利用者数は、10万人前後の横ばいで推移している。

石鎚展示館については、各コーナーにふぐあいが生じており、開設時の状態に整備する場合には、相当な経費が見込まれ、大規模改修が必要となる。

今後は、検討チームを設置し、元の形に復元するか、あるいは新しい形に取り組むのか、石鎚山ハイウェイオアシスの施設全体の在り方について協議していきたい。



椿交流館

円滑な実施を！

武道・ダンスの必修化

(自民クラブ)

問

平成20年3月、中学校学習指導要領の改訂により、平成24年度から中学校1・2年生は、保健体育で武道及びダンスを必修で学習することになっている。この必修化に対応した授業を円滑に行うため、本市においては、具体的にどのような対策を講じているか。

答

武道については、市内全ての中学校で剣道を履修予定であるが、既に今年度、竹刀や防具などを各校1クラス分準備し、4月からの実施に備えている。

剣道、ダンスの実施場所については、体育館や武道場を使用することとしており、市内10中学校とも安全な実施場所が確保されている。

また、生徒に安全で効果的な指導を行うため、指導教員は県が実施する研修や自主研修に参加し、指導力の向上に努めているところである。

今後は、武道やダンス指導のための書籍や視聴覚資料についても充実を図っていきたい。